

選考委員賞

地球と水〜未来へ届け！〜

御成門小学校 六年 佐倉 凜

私たちが何気なく使っている「水」水は私達に大きな恵みをもたらしてくれません。しかし、今、その水に大きな危機が迫っています。水が危機にさらされると、人間、そして多くの動物も生死の問題に直面します。そのような状況にある水のことを多くの人が知り、一人一人が水のことを考え行動すれば、少しでも水を救う道に近づけるかもしれません。

では、水がどのようなことになっているか考えてみましょう。

まず、地球にはどのくらい水があるのでしょうか。地球には、約14億 Km^3 （1400兆L）の水があるそうです。しかし、そのうちの97.5%は海水で、そう考えると真水は2.5%しかありません。しかも真水の70%は氷山や氷河で、29%は地下水です。結局、私達の使える水は1%もありません。地球全体で見れば約14万 Km^3 （1400億L）0.01%しかないのです。もっと小さくたとえてみると・・・。地球上の全ての水をドラム缶一杯（200L）とすると、私達の使える水はスプーン二杯分（20mL）しかないことになります。

又、日本やアメリカなどの先進国では、国民一人につき一日平均で145Lの水を使います。しかし、清潔で安全な水が手に入らない人は世界で二十二億人に上ると言われています。日本のように、水道の蛇口をひねれば安全な水が出てくるのは幸せといえるでしょう。

ツバルやキリバスのような海拔数mの島々は、計算上十数年のうちに沈んでしまうといわれています。地球温暖化の進行や異常気象などで起こる海面上昇です。でも、私達の行いや意識の持ち方でその島々を救うことができます。ツバルやキリギスのような島のことを知り、島のためを思って、「節水」や「節電」を心がけて、地球温暖化をくい止めましょう。そうすれば、島の水没をくいとめられるかもしれません。

昔から人間は、「水」を「エネルギー」に変える取り組みを行っています。水の流れを利用した「水力発電」は1890年代にヨーロッパやアメリカで始まり、1890年からは日本でも使われ始めました。又、波の働きによって発電する「波力発電」は1967年に日本で実用化されました。水はその力で私達の生活にかかせないエネルギーを作り出しています。

「水ってすごい！」と思った方、その思いを忘れないでください。この思いこそが、水の危険を回避できる一歩です。

明日の地球を良くも悪くもするのは人間です。そして、水の行方を決めるのも・・・。

私達の努力しだけで、百年先、二百年先の地球の未来がかわるかもしれません。安心して水が飲める環境を届けましょう。明日の地球へ。